

放棄の果て

(煙草の燃えさしを紙に押付けると
詩はみるみる炎の中に灰となってゆく)

福音は余りの乱発に破産が明らかとなり
悲劇的な宿命には同類の存在をもってこれを受け入れ

逝く者の後ろ姿に背を向けると
哀しみは生の敗北を告げるべく微笑に消え

ああ、不安をなだめすかすだけの日々の生活よ
ピルの谷間をさまよう紙片となるがいい

群れなして歩く、忙しくも油断ない視線は
投げ棄てられた旋律に感染されるを嫌い

追い立てられることに慣れた者達は未だ怖れる
尻押しをしてくれる社会の離反を

ああ、時間に縋りつくのみの日々の生活よ
蟻共に引き摺られる死骸となるがいい

(灰となるがいい
この日々の生活と共に)

(1992.2.24)